とよおか未来創生　兵庫県事業・施策研修調査 報告書

実施日： 2026 年 2 月 12 日（木）

訪問先： 兵庫県庁 各部局（総務部、福祉部、土木部、産業労働部、病院局）

対応者： 各部局長、次長、局長 ほか

1. 自治振興・教育（総務部：有田部長）

- **下水道整備の広域化：** 自治振興助成を活用した下水道整備は、今後広域化を推進する方向。公共下水に接続するための手法を検討するにあたり、システム改修による成功事例もあり、近隣市町に限らず、モデル的に実施・検討していく。
- **専門職大学と Z 世代：** 今年度の受験者数減少は、推薦枠を拡大したことによるもの。実習重視の教育を維持しつつ、県として若者（Z 世代）施策に注力している。

2. 福祉・医療（福祉部：岡田部長）

- **地域福祉の担い手：** 福祉委員（2 年任期）と隣保長（1 年任期）の乖離が課題。市町独自の工夫（1 年任期化など）も含め、円滑に回るような運営手法を模索する。
- **不妊治療支援：** 知事の重点分野であり、県の先端医療での支援がある。一方で、県が随伴しない特定分野については市でのカバーを検討。詳細は保健医療部へ。

3. 社会基盤・交通インフラ（土木部：宇野部長、家永次長）

- **除雪体制：** 補修を含め、特別交付税（特交）の確実な確保を目指す。
- **河川・道路整備：** 円山川下流のパラペット（防潮壁）整備は直轄事業として注視。戸島玄武洞線の利用周知を強化。
- **交通リデザイン：** バス事業者のサーバー集約を先行させ、後に JR と連携。交通モードを連携していくための検討・リデザインを行う。
- **但馬空港の活性化：** 滑走路端安全区域（RESA）の整備を推進。新潟便の好調を受け、**東京便実現のためには（成田 37 分、トキエア等）利便性向上を広い視点で考える**とともに、深刻なグランドスタッフ不足への対策が急務。

4. 産業振興・雇用対策（産業労働部：小林部長、長尾就労対策官 ほか）

- **但馬技術大学校：** 職業能力開発について、これまでの教育に加え、在職者教育へのシフトも進めていく。
- **次世代産業・環境：** 2030 年に向けた「空飛ぶクルマ」、神戸・播磨地区での GX（グリーントランスフォーメーション）推進。
- **インバウンド・企業誘致：** 米国客等インバウンドへの緊急時コンシェルジュ整備を検討。企業誘致は地場産業の衰退を招かぬよう、バランスを重視。
- **多様な働き方（ギグワーク）：** 淡路島で先行実施しているマッチングシステム「マッチボックス」を紹介。将来的な但馬導入を視野に検討。オンライン学習によるスキル修得やワークライフバランスも推進。

5. 県立病院経営・地域医療（病院局：原田副管理者、梅田局長）

- **病院経営の現状：** 県立病院全体で年 120 億円の赤字という厳しい状況。黒字病院における給与体系（民間並みのインセンティブ導入）などの経営努力を継続。
- **医療システム基盤：** マイナンバーカード利用率 8 割を背景に、国主導のシステム整備が進む。2040 年に向けた地域医療構想を推進。